

日本英語教育史学会 会報

326

2025 年 4 月 9 日

HiSELT *Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan*

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 田邊祐司)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562
県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室
tel : 0824-74-1727 fax : 0824-74-0191
e-mail : membership@hiset.jp

会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)

ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873

ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873

学会公式ウェブサイト www.hiset.jp

第302回研究例会報告

2025 (令和 7) 年 3 月 15 日 (土), 第 302 回研究例会が専修大学サテライトキャンパスで開催されました。参加者は 17 名でした。

例会では 2 つの研究発表が行われました。最初は, 平井清子氏 (北里大学) が「台湾と日本の英語教科書の繋がり」と分岐点—文学教材とその指導を中心に」というタイトルで発表されました。次に, 「自著を語る」という企画で, 吉村和也氏 (和洋女子大学大学院生) を指定討論者に迎え, 森悟氏 (本学会会員) が「春水と英語」というタイトルでお話されました。司会は河村和也氏 (県立広島大学) でした。以下に参加者の感想を掲載しますので, ご参照ください (①は平井氏, ②は森氏及び吉村氏の発表への感想, ③は会全体に対する感想です)。



会場となった専修大学サテライトキャンパスの写真*
(写真は例会時のものではありません)

<発表 1 の感想>

◆台湾の教科書が日本の教科書の本文を引用していると最初に聞いたとき、単に楽をするための行動かと思いました。しかし、実際には、日本の教材で使用された本文が当時の台湾の教育方針に合致していたことに驚きました。また、『詩』を思考力育成に役立てた点や、語彙・文法・問題練習に重点を置くという台湾独自の英語教育のアプローチに賛同するとともに、感銘を受けました。(岩井春樹)

◆この度はご発表いただきありがとうございました。台湾ならではの工夫が語彙セクションや練習問題に施されているという点に非常に興味がわきました。台湾の英語教育理論の源流をより知りたくなるご発表でした。(ボレボレ)

◆平井先生、貴重なご発表をありがとうございました。過去の台湾と日本の教科書におけるつながりや、交わることのなかった要素を通して見えてくる現在の日本の英語教育の課題について、大変興味深く拝聴いたしました。(堀由紀)

◆非常に参考になりました。私も台湾のことを調査対象として考えていますので、またいろいろ教えていただけると助かります。(Ringtree)

<発表 2 の感想>

◆佐川春水の英語教育史におけるご活躍や考え方は、感銘を受けるものばかりでした。特に、カードと3つの箱を使った英単語暗記法は今の単語帳と赤シートの基礎であるのではないかと感じました。また、森先生の『歴史研究の重要性は生き方を学ぶことである』というお言葉には深く共感し、歴史を学ぶ意義について改めて考えさせられました。(岩井春樹)

◆森先生の春水の継続したご研究にはいつも新しい発見があり、大変興味深く拝聴いたしました。英語教師として春水の教材研究のお話しは心に残りました。ご発表中に質問のあった「徳田」とは、金沢出身の私には徳田秋声が思い浮かびました。(ニーナ)

◆非常に明快なお話でいつも感銘を受けています。カードを利用した単語学習法は明治期より存在しましたが、箱を使いながら英和・和英の形式で学ぶ方法は、まさに春水という翻訳家の側面をあらわすものだと感じました。(ボレボレ)

◆森先生、素晴らしいご発表をありがとうございました。まるで壱家さんの語りを聞いているような心地よいご発表で、引き込まれるように拝聴いたしました。先生のお話の中で、高校や生徒たちに関するエピソードには思わず涙がこぼれました。私も自ら運営する児童英語教室で、より一層努力しようと新たに決意をいたしました。(堀由紀)

◆とても面白く参考になりました。新たに佐川の本等を買いたいと思いました。(Ringtree)

<会全体に対する感想>

◆今回は久しぶりの対面での開催、大変お世話になりました。やはり同じ場所で共有する時間というのは意義のあるものと改めて思いました。ただ、遠方からのご参加がかなわないこともありますので、オンラインと交代で行う今の方法はとても良いと思います。今後はハイフレックスなどもご検討いただけると幸いとも思いました。(ニーナ)

◆対面開催ありがとうございました。(堀由紀)

◆いろいろありがとうございました。(Ringtree)

発表を終えて

平井 清子 (北里大学)

この度「台湾と日本の英語教科書の繋がり」と分岐点—文学教材とその指導を中心に—というタイトルで発表をさせていただきました。台湾と日本の英語教育は、世界的な言語学の潮流に従って、1950 年代後半より 1960 年代にかけては構造言語学、そして 1960 年代末から生成文法の理論の流れを汲んでいきます。しかしその後は、どちらもコミュニケーション重視の指導へ移行しながらも、この頃から文学教材の扱いにおいて両国で大きな違いが出てくるのです。そこには社会的背景と同時に、両国が採用した CLT の理論の取り方の違いに要因があったことを本発表では指摘させていただきました。一方、台湾の戒厳令解除直前から直後にかけての 1983 年「課程標準」準拠版教科「文学教材」の改編・抜粋が複数認められます。しかし引用されるのは教科書「本文」であり、練習問題などは全く独自のものを編纂しているのです。この理由は何でしょうか。本発表ではこれらを明らかにすることを試みました。

台湾では語彙、文法指導や練習問題には独自のスタイルがあり、とりわけ 1983 年「課程標準」準拠版では、4 技能統合とコミュニケーション力養成が重視され、その指導法は戦後独自に開発改善されてきていると思われます。教材の引用を「本文」のみにとどめる、他国からの教材の引用と適用のプロセスの一例をして紹介させていただきました。会場の先生方からは、発音記号の違いや出典そのもののソースについてなど貴重なコメントをいただき、新たなヒントや確認すべき点などがわかり心より感謝いたします。

発表を終えて

森 悟 (本学会会員)

日本の英語教育史には授業の達人、いわゆる名教師がたくさん登場する。しかし、その授業内容が正確に記されたものは皆無に近く、出来成訓先生が残された斎藤秀三郎の膨大な講義録が、おそらく唯一の例外であろう。しかし、その分量には及ばないまでも、貴重な授業記録が残されている。それが佐川春水の講義ノートである。春水の死後、焼却される寸前に息子の洋が拾い上げ、常松正雄先生 (島根大学名誉教授) に遺品として渡したものである。そして、そこには昭和 25 年 (1950) から 8 年間、島根大学の文理学部で行なった英作文講義の内容が記されていたのである。春水は昭和 34 年 (1959) 春に大学を去っている。そして英語教師生活の集大成として英作文講義の題材に選んだのが、井上靖の小説『氷壁』であった。それは名講義として現在も語り草になっている。

今回紹介した拙著『評伝 佐川春水 補遺』には『氷壁』の講義 21 回分がすべて収まっている。「これが最後、今年が最後」、そんな思いで綴っていった春水の英訳と例文を、ぜひ多くの方に読んでいただきたいと思います。そうすることで、新たな視点から佐川春水の研究が、そして英語教育史の研究がいつそう深まると確信しているからである。

>> 事務局より

>> 2024 年度第 5 回定例理事会を開催

2025 年 3 月 23 日(日)17 時より 1 時間半にわたり Zoom を用いてオンラインによる理事会が開催され、以下の件が話し合われました。

1. 第 41 回全国大会 (広島大会) について

→ 上野理事の提案を受け、運営の詳細およびプログラムを確定しました (詳細は 4 ページ)。

2. 投稿規程・学会賞規程の改正について

→ 惟任理事の提案を受け、4 月中に開催予定の次回理事会において確定することを決めました。
詳細は全国大会の際に開催する会員総会に報告します。

3. 紀要編集の進捗状況について

→ 惟任理事より第 40 号は例年通り 5 月に刊行の運びである旨の報告を受けました。あわせて、
紀要に関し、電子ジャーナル化の検討を進めることを確認しました。

4. 研究例会の日程について

→ 熊谷幹事の提案を受け、次回理事会において確定することを決めました。詳細は全国大会の際
に開催する会員総会に報告します。

5. 会計について

→ 河村事務局長より第二次中間報告をしました。最終的な会計のまとめは会員総会に報告します。

6. 次期役員体制について

→ 選挙管理委員会からの報告を受け、協議しました。

(文責：事務局)

>> 名簿原票の返送について

会員台帳の情報を更新するため、4 月中旬をめどに、すべての会員のみなさまに「名簿原票」を郵送します。電子版会報の受け取りにご協力くださっているみなさまにもお送りしますので、必ず開封のうえご確認ください。お忙しい時期にお手を煩わせることとなり恐縮ですが、よろしくご協力ください。

>> 会費について

会費未納の方へのご連絡を昨年末より進めたところ、多くの方に早々のご対応をいただきました。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

名簿原票をお送りする際、会費の未納分がある方には「会費納入のお願い」もしくは「会員継続のご案内」を同封させていただきます。引き続きのご協力をお願い申し上げます。

≫ 2025 年度の紀要と会費について

全国大会にお越しの方には、受付にて紀要とともに「会費納入のお願い」をお渡しします。会場での現金の取り扱いを減らすため、当日は会費をお納めいただかないこととしています。お手数をおかけするうえ送金手数料のご負担をお願いすることとなり申し訳ありませんが、後日のご送金をお願いします。

全国大会にお越しにならない方には、終了後に事務局より「スマートレター」で発送します。その際、新年度分の「会費納入のお願い」を同封しますので、よろしくご協力ください。なお、前年度（2024 年度）までの会費が未納の方には紀要はお送りせず「会費納入のお願い」のみを郵送します。

現在、会員名簿は発行していませんが、ご希望の方には会員台帳から出力したものをお送りしますので、「名簿原票」確認の際にお申し付けください。

紀要に論考が掲載された方には抜刷をお送りします。印刷会社に発送を依頼しており、事務局からお送りする紀要の本冊よりも早く届きますのでご承知おきください。

日本英語教育史学会第 41 回全国大会(神奈川大会) ぜひご参加ください

第 41 回全国大会(神奈川大会)は、ハイレックス(一部は対面のみ)で開催いたします。皆さま、どうぞ奮ってご参加ください。記念企画は対面限定ですので、ご都合のつく方は対面で、対面参加は困難だが...という方はオンラインでお目にかかれますことを楽しみにしております。

期 日 2025 年 5 月 17 日(土)・18 日(日) ※17 日(土)は午後からの開催

会 場 【対面】 神奈川大学横浜キャンパス(神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1)

【オンライン】 Zoom

参加費 会員・学生：無料 一般(非会員)：1,000 円

◆ プログラム

1 日目(17 日)には 50 年の節目を迎える「英語教育大論争」(平泉・渡部論争)をテーマにした記念企画(対面限定)を実施いたします。また、1 日目、2 日目ともに、研究発表が行われます。詳細につきましては、学会ウェブサイト(<https://hiselt.org/>)をご覧ください。

◆ 参加方法

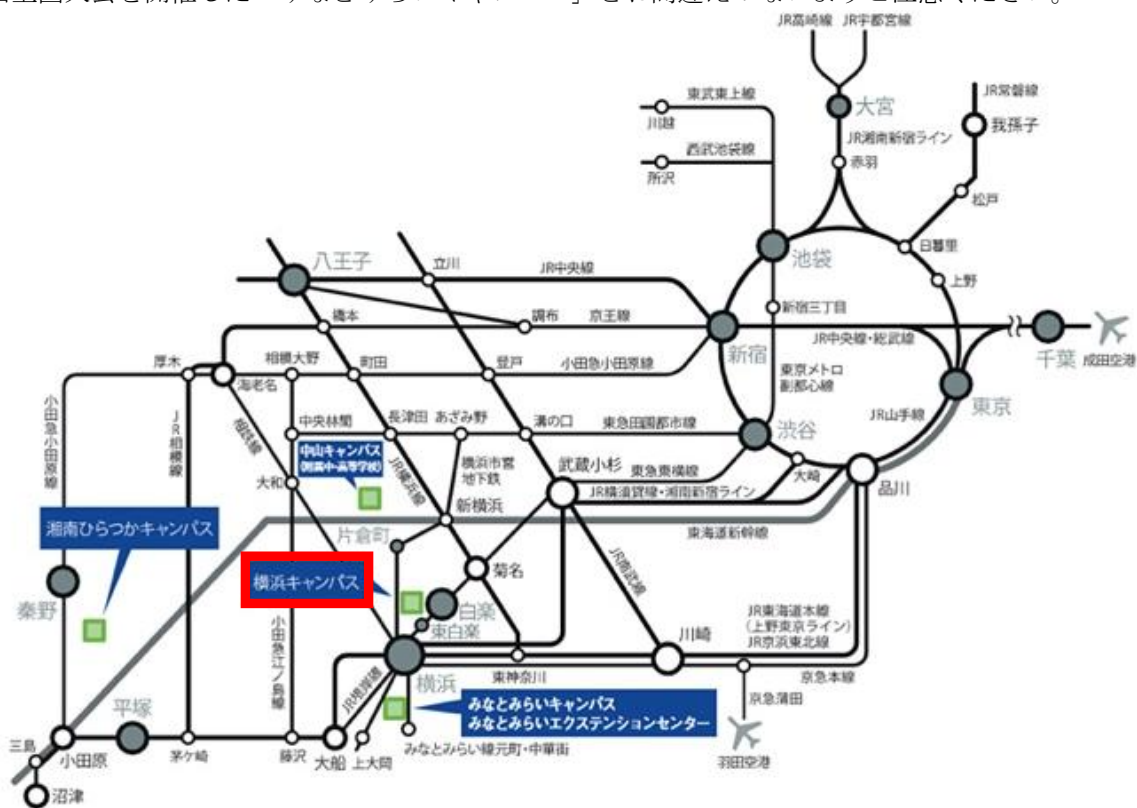
学会ウェブサイト(上掲 URL)からのお申し込みとなります。

◆ お問い合わせ先

下記のメールアドレスまで、お気軽にご連絡ください。

大会実行委員会 taikai@hiselt.org

会場となる「横浜キャンパス」は東急東横線の白楽駅または東白楽駅より徒歩 15 分弱のところにあります。横浜駅から横浜市営バスの便もあります。会場にお越しの方は、2023 年 5 月に第 39 回全国大会を開催した「みなとみらいキャンパス」とお間違えのないようご注意ください。



>> この先の研究例会

*第 304 回以降の研究例会の日程及び開催方法については現在検討中です。

Email: reikai@hiset.jp

© 日本英語教育史学会会報編集部 (秋田大学 若有研究室 newsletter@hiselt.org)